

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝中。財源＝低。●地域支援課

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
6-5	市民との協働による交通安全体制の充実	市民	交通事故が少なくなり、死傷者数が減っている	成果	交通事故発生件数(件) (千人あたりの件数)(件) ※実件数は17年度以降を把握	527 (10:9)	510 (10:6)	475 (9:9)	463 (9:5)	427 (9:5)	389 (8:0)	422 (8:7)	▲	466 (9:5)	▲	不調	全国的に交通事故発生件数は減少傾向にある中、本市での発生件数は44件増加しており、不調である。各地域の安全で安心できるまちづくり協議会の活動や警察のパトロール・取締り、警察や交通安全協会との協働による交通安全キャンペーンなどにより成果を上げる必要がある。	安全安心まちづくり組織が市内全域に設立され、防犯と交通安全の活動が実施されている。警察、交通安全協会、筑後市安全で安心できるまちづくり協議会と連携し、交通安全活動の取組みを継続していく。また、交通安全指導員も活動しており、交通安全週間・キャンペーンにおける取組みを継続していく。また、第9次交通安全計画を今年度策定し、交通安全対策を総合的に進めていく。
				成果	交通事故死傷者数(人) (千人あたりの死傷者数) (人) ※実件数は17年度以降を把握	662 (13:8)	639 (13:3)	616 (12:8)	596 (12:3)	562 (11:5)	489 (10:0)	567 (11:6)	▲	583 (11:9)	▲	不調	交通事故死傷者数は16人増加した。前期目標は達成しているものの、全国的に減少傾向にある中、交通事故件数の増加に伴い死傷者数も増加している。福岡県では飲酒運転による事故が多く、近年、再び増加傾向にある。また、高齢者が事故に巻き込まれることが多く、重点的な対応が必要となる。	安全安心まちづくり組織が市内全域に設立され、防犯と交通安全の活動が実施されている。警察、交通安全協会、筑後市安全で安心できるまちづくり協議会と連携し、交通安全活動の取組みを継続していく。特に、飲酒運転事故、自転車、交通弱者といわれる子供や高齢者への取組みを強める必要がある。また、第9次交通安全計画を今年度策定し、交通安全対策を総合的に進めていく。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	交通安全教育と啓発の充実	市民(特に高齢者・幼児及び乳幼児の親)	交通安全についての市民の知識が高まり、交通ルールを守り、交通安全を心がけるようになってきている。	成果	交通ルールを順守している市民の割合(%)	83:7	85:8	83:8	85:1	84:9	85:1	86:8	▲	89:8	▲	目標達成	交通違反を1年間しなかった人の割合は3.0ポイント増加しており、目標は達成している。飲酒運転の撲滅、道路交通法の規制強化などの対策の取組が、市民に浸透してきているため交通ルールを順守している割合が増えてきている。	警察、交通安全協会、さらには地域と連携して、出前講座等を活用しながら交通安全についての啓発を行い、市民の交通ルール順守のモラル向上を図る。また、学校における交通安全啓発についても、警察、交通安全協会と協力しながら推進していく。
02	地域での交通安全推進活動の充実	市民	地域で交通安全を推進する気運が高まり、住民参加等による交通安全活動が行われている。	成果	交通安全活動を行った市民の割合(%)	6:2	11:7	10:2	10:8	11:7	9:7	13:3	▲	14:3	▲	順調	地域での交通安全活動をした人の割合は1.0ポイント増加しており順調である。各地域で設立された安全安心まちづくり協議会については、すべての校区で結成されており、この協議会を核に、住民のかかわりが強くなっていると判断できる。	地域の安全安心まちづくり協議会の活動がより活性化することにより、さらに成果は向上するものと思われる。そのため、この協議会の活動を、市で支援していく必要がある。また、協議会と市と警察等関係機関と連携図り、安全で安心なまちづくりを協働して進めていく。
03	交通安全施設の整備	市内全域	・交通安全施設(道路照明灯、カーブミラー、ガードレール、区画線等)が、適切に整備、維持管理されている。 ・信号機、横断歩道等が配置され、安全性が高まる。	代替	交通安全施設整備割合(%)	-	-	-	-	-	0	14:0	-	54:6	100:0	順調	目標数値は、年度計画の数値であり現段階では、目標に向けて順調に整備ができていく。また、地域からの整備要望に対しても、単年度で対応ができており順調である。今後とも、地域との協働により安全施設の整備を進め安全安心まちづくりを進めていく必要がある。	昨年度、学校関係者、地域代表、市と通学路の危険箇所合同点検を実施し、通学路における危険箇所の抽出を行った。今年度より危険箇所の対策のため通学路対策事業が事業化され、通学路の整備を充実させていく予定でありさらなる安全安心のまちづくりを目指す。
				代替	カーブミラー(基)	-	-	-	-	-	0	10	-	33	127			
				代替	ガードレール(m)	-	-	-	-	-	0	563	-	1,530	2,098			
				代替	道路の白線(m)	-	-	-	-	-	0	1,447	-	12,687	19,527			